

管理対象システムのH/Wコンポーネント交換後に必要なSystems Director上の作業について

2015年4月14日
8:43

管理対象システムのH/Wコンポーネント交換後に必要なSystems Director上の作業について ヒント集

Systems Directorサーバーは、管理対象サーバー機システムボードの固有IDを利用して管理対象システムを識別・管理しています。また、管理対象サーバー機各HWコンポーネントの構成情報はSystems Directorサーバーの管理データベースにインベントリーとして保管され、各管理タスクの前提として参照されます。

これらの管理情報を適切に維持するため、監視対象システムのH/Wコンポーネントを障害/故障などで交換した場合には、Systems Directorサーバーのコンソール上の作業が必要となります。また、コールドスタンバイ構成で予備機に切り替えた際、および、SAN Bootで予備機に切り替えた際にも同様にHWコンポーネントが変わるため、同様の考慮点が該当します。

Systems Directorのバージョンにより必要な作業は異なります。詳細は下記をご参照ください。

更新履歴

2011年6月14日 公開開始

2011年12月14日 該当ケースを追加

※用語解説

Out-of-band監視・・・管理対象サーバーに搭載されるシステム管理プロセッサとSystems Directorサーバーが直接通信して管理を行う管理方法です。

In-band監視・・・管理対象サーバーにSystems Director エージェントを導入し、Systems Director エージェントとSystems Directorサーバーが通信して管理を行う方法です。

IMM・・・統合管理モジュール

BMC・・・ベースボード管理コントローラー

【System x/iDataPlex】

■システムボード交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバー（IMMまたはBMC）を「サーバー」タイプで検出します。
4. 検出された該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
5. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。

3. 交換後の該当サーバー (IMMまたはBMC)を「サーバー」タイプで検出します。
 4. 検出された該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
 5. 該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対して「接続の検査」を行います。（その際「必須プロパティの照会」にチェックが入っていることを確認してください。）
 6. 該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対して「インベントリ収集」を行います。
 7. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。
- ※「オペレーティング・システム」アイコンに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。「サーバー」アイコンに紐付く自動化プラン、閾値の設定変更は必要です。

Systems Director 6.2.0以前

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバー (IMMまたはBMC)を「サーバー」タイプで検出します。
4. 検出された該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
5. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンを削除します。
3. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンの「アクセス」状況が「不明」になったことを確認し、「サーバー」アイコンを削除します。
4. 交換後の該当サーバー (IMMまたはBMC)を「サーバー」タイプで検出します。
5. 交換後の該当サーバー (Directorエージェント)を「オペレーティング・システム」タイプで再検出します。
6. 検出された該当サーバーの「オペレーティング・システム」に対してアクセス要求を行います。
7. 検出された該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
8. 検出された該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
9. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

Director 5.x

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバー (BMCまたはIMM)を「物理プラットフォーム」タイプで検出します。
4. 検出された該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
5. 該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「Director システム」アイコンを削除します。
3. 交換前の該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンを削除します。
4. 交換後の該当サーバー (IMMまたはBMC)を「物理プラットフォーム」タイプで検出します。
5. 交換後の該当サーバー (Directorエージェント)を「Director システム」タイプで再検出します。
6. 検出された該当サーバーの「Director システム」に対してアクセス要求を行います。
7. 検出された該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
8. 検出された該当サーバーの「Director システム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
9. 該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値のあらためて設定します。

■システムボード以外のHWコンポーネント (CPU、メモリー、電源、ファン、拡張アダプターなど) 交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

Systems Director 6.2.0以前

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「サーバー」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

Director 5.x

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 該当サーバーの「Director システム」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

【BladeCenter】

■ブレードサーバーのシステムボード交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してのインベントリー収集を行います。（交換されたサーバーの「サーバー」アイコンが表示されます。）
4. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。

2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。
 3. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してのインベントリ収集を行う(交換されたサーバーの「サーバー」アイコンが表示されます。)
 4. 該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対して「接続の検査」を行います。(その際「必須プロパティの照会」にチェックが入っていることを確認してください。)
 5. 検出された該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対して「インベントリ収集」を行います。
 6. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、閾値の設定変更を行います。
- ※「オペレーティング・システム」アイコンに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。「サーバー」アイコンに紐付く自動化プラン、しきい値はあらためて設定します。

Systems Director 6.2.0以前

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。(交換されたサーバーの「サーバー」アイコンが表示されます。)
4. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンを削除します。
3. 交換前の該当サーバーの「サーバー」アイコンの「アクセス」状況が「不明」になったことを確認し、「サーバー」アイコンを削除します。
4. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。(交換されたサーバーの「サーバー」アイコンが表示されます。)
5. 該当サーバー(Directorエージェント)を「オペレーティング・システム」タイプで再検出します。
6. 検出された該当サーバーの「オペレーティング・システム」に対してアクセス要求を行います。
7. 検出された該当サーバーの「オペレーティング・システム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
8. 該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定します。

Director 5.x

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。(交換されたサーバーの「物理プラットフォーム」アイコンが表示されます。)
4. 該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定します。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当サーバーの「Director システム」アイコンを削除します。
3. 交換前の該当サーバーの「物理プラットフォーム」アイコンを削除します。
4. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。(交換されたサーバーの「物理プラットフォーム」アイコンが表示されます。)
5. 該当サーバー(Directorエージェント)を「Director システム」タイプで再検出します。
6. 検出された該当サーバーの「Director システム」に対してアクセス要求を行います。
7. 検出された該当サーバーの「Director システム」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
8. 該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定します。

■ブレードサーバーのシステムボード以外のHWコンポーネント(CPU、メモリー、拡張アダプターなど)交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してのインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してのインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

Systems Director 6.2.0以前

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付く自動化プラン、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

Director 5.x

<Out-of-band監視のみを行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

<Out-of-band監視 + In-band監視を行っている場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後の該当サーバーが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。
- ※該当サーバーに紐付くイベント・アクション計画、しきい値をあらためて設定する必要はありません。

■AMM交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

<AMMが冗長構成の場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリ収集を行います。

<AMMが単一の場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※但し、あらかじめAMMの構成情報のバックアップを取得し、交換時にリストアを行ってください。

Systems Director 6.2.0以前

<AMMが冗長構成の場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。

<AMMが単一の場合>

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※但し、あらかじめAMMの構成情報のバックアップを取得し、交換時にリストアを行ってください。

Director 5.x

<AMMが冗長構成の場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。

<AMMが単一の場合>

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
 2. 交換後のAMMが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
- ※但し、あらかじめAMMの構成情報のバックアップを取得し、交換時にリストアをしてください。

■I/Oモジュール交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当I/Oモジュールの「スイッチ・モジュール」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当I/Oモジュールが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
4. 該当I/Oモジュールに紐付く自動化プランなどをあらかじめ設定します。

Systems Director 6.2.0以前

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当I/Oモジュールの「スイッチ・モジュール」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当I/Oモジュールが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
4. 該当I/Oモジュールに紐付く自動化プランなどをあらかじめ設定します。

Director 5.x

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換前の該当I/Oモジュールの「I/Oモジュール」アイコンを削除します。
3. 交換後の該当I/Oモジュールが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。
4. 該当I/Oモジュールに紐づくイベント・アクション計画などをあらためて設定します。

■その他のH/Wコンポーネント(電源モジュール、ファンなど)交換時に必要な作業

Systems Director 6.2.1以降

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のH/Wコンポーネントが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。

Systems Director 6.2.0以前

1. 「リソースのナビゲート」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のH/Wコンポーネントが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。

Director 5.x

1. 「すべての管理対象オブジェクト」画面で監視対象システムを表示します。
2. 交換後のH/Wコンポーネントが搭載されているBladeCenterの「BladeCenterシャーシ」アイコンに対してインベントリー収集を行います。

以上

免責:

当内容は、お客様、販売店様、その他関係者が、System x, Flex Systemなどを活用することを目的として作成しました。

詳細につきましては、URL (<http://www.lenovo.com/legal/jp/ja/>) の利用条件をご参照ください。

当技術資料に含まれるレノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社およびLenovo Enterprise Solutions (以下総称して、LES) 以外の製品に関する情報は、各提供ベンダーより提供されたものであり、LES はその正確性または完全性についてはいかなる責任も負いません。

当技術資料の個々の項目は、LESにて検証されていますが、お客様の環境において全く同一または同様な結果が得られる保証はありません。お客様の環境、その他の要因によって異なる場合があります。お客様自身の環境にこれらの技術を適用される場合は、お客様自身の責任と費用において行なってくださいますようお願いいたします。

Copyright 2015 レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社

文書番号: SYJ0-0210A42

最終更新日: 2011-12-14